

## 来間島におけるラッパガイ *Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908 の初記録

宮古島市総合博物館 湯屋 秀捷

### 要旨

沖縄県の宮古諸島来間島から、ラッパガイ *Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908 を採集した。本種は宮古島、伊良部島、石垣島、波照間島、与那国島から記録があるが、来間島からの記録は知られていないため、採集された 5 個体の標本に基づき、来間島初記録として報告した。

### Abstract

*Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908 was collected from Kurima-jima Island. This species has only been recorded from Yonaguni-jima Island, Hateruma-jima Island, Ishigaki-jima Island, Miyako-jima Island, and Irabu-jima Island. In this paper, I report the first record of this species from Kurima-jima Island, based on a sample of 5 adult specimens collected from the southwestern part of the island

### はじめに

ラッパガイ *Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908 は、殻長約 1.3mm、殻径約 1.4mm のスナガイ科に属する陸産貝類で、与那国島の標本に基づいて記載された (Pilsbry, 1908)。本種はこれまで宮古島、伊良部島、石垣島、波照間島、与那国島から記録されており、隆起サンゴ礁上に発達した森林内において、琉球石灰岩の岩壁や転石に依存して生活する。

環境省版レッドリスト、レッドデータおきなわでは、森林下の石灰岩地の乾燥化、開発による生息地場所そのものの消失などから、それぞれ絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、絶滅危惧 II 類に選定されている (環境省 2020; 久保 2017)。

筆者は 2024 年 10 月に宮古諸島の来間島においてラッパガイ 5 個体を採集した (Fig.1)。来間島における本種の記録は知られていないため、ここに本種の新たな分布記録として報告する。

### 材料と方法

標本は 2024 年 10 月 4 日に来間島南西部の

林内石灰岩壁にて採集された。採集された個体は、宮古島市総合博物館 (MCM) に乾燥標本として保存した。

### スナガイ科

### Gastrocoptidae Pilsbry, 1918

### ラッパガイ

### *Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908

(Fig.2)

**調査標本.** MCM-N12-24002, 2024 年 10 月 4 日, 5 個体, 沖縄県宮古島市来間, 湯屋秀捷.

**形態.** 殻径 2.0-2.3 mm, 螺層数 4.5 層. 螺塔はやや高く円錐形で、殻底は平坦. 体層の周縁はやや角張るが、殻口までは達しない. 殻口は螺層から突出し、反転する. 殻口内には 6 つの歯状突起が現れる. 標本の個体および観察された個体のほとんどは殻に砂粒が付着していたほか、一部の個体には藻類のようなものが付着していた.

**生息環境.** 本稿で報告したラッパガイは、来

間島南東部の断層崖下に広がる林内の石灰岩壁にて確認、採集した (Fig.2-A,B). 生息地面積は極めて小さく、観光地化された遊歩道沿いとなっているものの、周囲は湿潤な状態が保たれる環境で、宮古諸島固有のアカマイマイ *Aegista oculus* (Pfeiffer, 1850) やミヤコゴマガイ *Diplommatina immersidens* Pilsbry et Hirase, 1904, ミヤコヤマタニシ *Cyclophorus turgidus miyakoensis* Pilsbry, 1905 のほか、ゴマオカタニシ類 *Georissa* sp., ノミガイ *Tornatellides boeningi* (Schmacker & Boettger, 1891) やナガケシガイ *Carychium cymatoplax* Pilsbry, 1901 などが見られ、特にミヤコゴマガイ、ゴマオカタニシ類は高密度に生息していた。このほか、ホソアシヒダナメクジ科 *Rathouisiidae* の未詳種が2タイプ確認されている。本種の生息地は宮古島市指定天然記念物・保護区「来間島断崖の植生」に指定されている。

**備考.** 記録標本の形態的特徴及び生息環境がこれまでの記録において示されたラッパガイの特徴とよく一致したため本種と同定された。

本種はこれまで与那国島、波照間島、石垣島、宮古島、伊良部島から記録されている。長らく飛び石的な分布であると考えられていたが、2023年の石垣島からの記録により、連続的な分布である可能性が示唆された (八嶋・藤田・富森 2023)。また、宮古諸島における本種の分布状況から、市街地近くであっても自然度の高い場所であれば生息が確認されることが報告されている (久保 2019)。来間島における分布記録は、本種が南琉球に連続的に分布するという見解および小規模な面積でも生息の可能性があるという知見に矛盾するものではなく、むしろ森林がほとんど残されていないような小島嶼においても、ラッパガイが生息する可能性が十分に

あることを示唆している。加えて、宮古島においても未発見のごく小規模な生息地がある可能性があり、より網羅的な調査が必要と考えられた。

#### 謝辞

本稿を執筆するにあたり、琉球大学理学部の平野尚浩氏と、自然環境研究センターの元陳力昇氏には原稿の執筆・改訂にあたり多くのご助力をいただいた。記して厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>
- 久保弘文, 2017. ラッパガイ. 沖縄県(編), 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物第3版 (動物編) レッドデータおきなわ. P, 515.
- 久保弘文, 2019. 陸産貝類. 宮古島市史編さん委員会(編), 宮古島市史第三巻自然編 第I部 (本編) みやこの自然. P, 319-338.
- 八嶋勇氣・藤田衛・富森祐樹, 2023. 石垣島初記録となるラッパガイ. *Fauna Ryukyuana*, 67: 25-27. Fujukan, University of the Ryukyus.
- Pilsbry, H.A., 1908. Two genera of land snails new to Japan Korea. *The Conchological Magazine*. Kyoto, 2: 39-42.



Fig.1 来間島の位置  
Location of Kurima-  
jima Island.

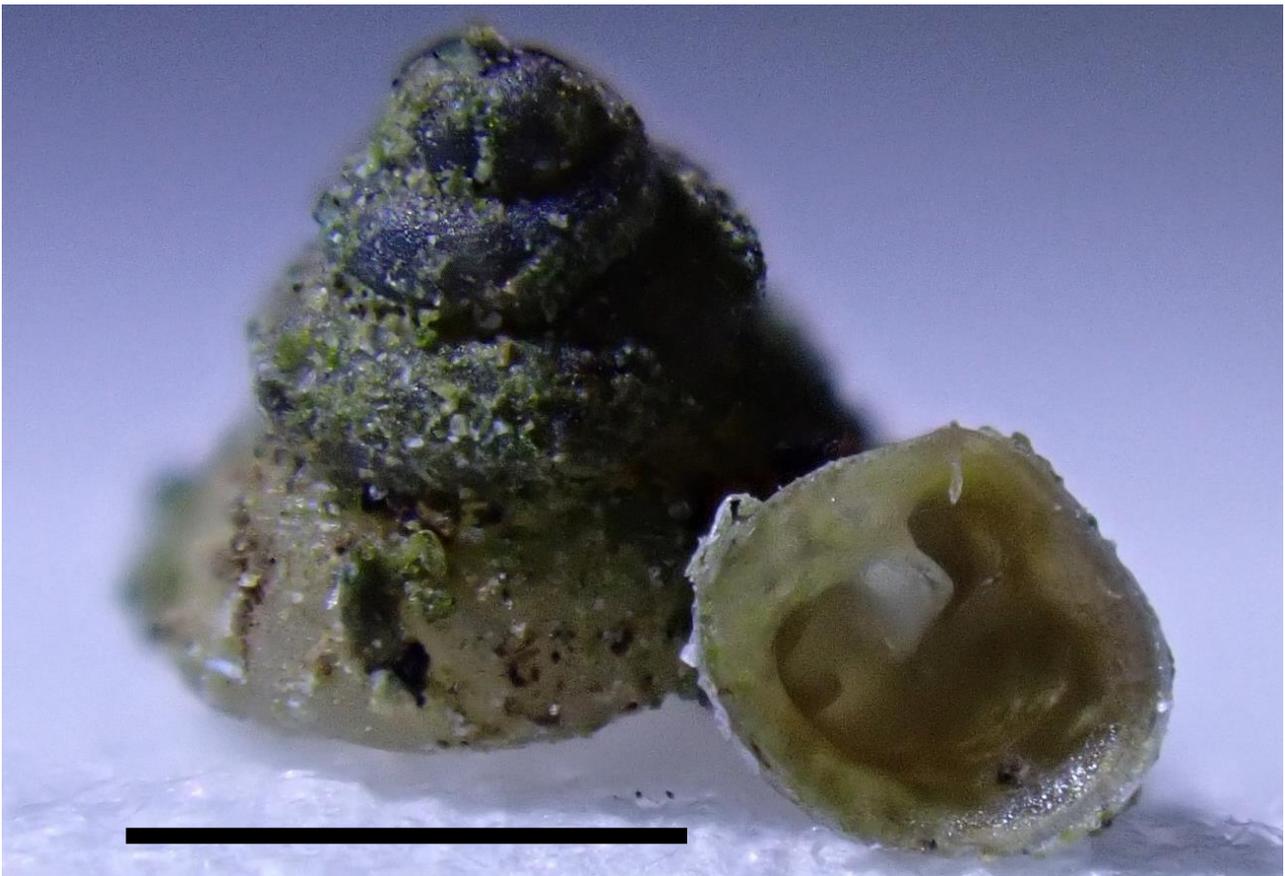


Fig.2 来間島から得られたラッパガイ (MCM-N12-24002) . スケールバー: 1 mm.  
*Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908 collected from Kurima-jima Island. (MCM-N12-24002)  
Scale bar: 1mm.



Fig.3 来間島におけるラツパガイの生息環境 (A)  
および活動中の個体 (B)

Habitats (A) and live individuals (B) of  
*Hypselostoma insularum* Pilsbry, 1908 on  
Kurima-jima Island.